

2016年6月18日『美しく豊かな海づくりに関する協定』に基づく活動の一環として、アマモ種子の採取に汗を流した。笠岡市漁業連絡協議会、笠岡市、おかやまコープ、天野産業(株)、岡山県、NPO 里海づくり研究会議の総勢 80名



山陽新聞 2016年6月21日(火)

花枝を採取する参加者

稚魚のすみかや生物の産卵場所となるアマモ場を再生しようと、笠岡地区漁業連絡協議会(井本瀧雄会長)などは18日、種が付いたアマモ「花枝」を笠岡市神島沖などで採取した。(平田亜沙美)

## アマモ場再生しよう

笠岡地区漁業連絡協など

アマモ場の再生活動を推進しながら5月に結んだ連携進めるため県や市、同協議 協定事業の一環。それぞれ

の団体などから計約80人が参加した。

参加者は、市漁協(同市神島外浦)でアマモの特性や重要性などを学んだ後、15隻の船に乗り込み出発。同市神島、高島沖のアマモ場で浅瀬に入って素手で取ったり、船上から熊手ですくったりして花枝を採取した。

採取した花枝は網に入れ、市漁協近くの棧橋にロープでくくりつけ、10月の種まきまで海水に漬けたまま保管する。

同協議会委員の藤井和平さん(46)は「今後も協力して活動を続け、アマモ場がたくさんあった昔の豊かな海を取り戻したい」と話している。

### 80人が花枝採取 10月に種まき